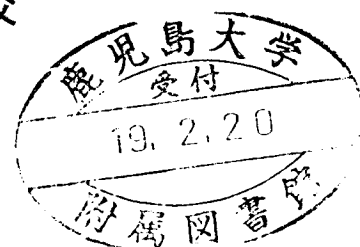


自分のよさやもてる力を発揮する  
子どもを目指した授業づくり



平成19年2月  
鹿児島大学教育学部附属養護学校



## は じ め に

校 長 島 澤 郎

名実共に「特別支援教育元年」というべき平成19年が明けました。

振り返りますと、平成13年1月の文部科学省の再編で、「特殊教育課」が「特別支援教育課」と名称を変更して以来平成18年度までの様々な動きは、まさにこの「特別支援教育元年」を迎えるための外堀を埋める取組であったように思います。とりわけ、昨年暮れに成立いたしました教育の憲法ともいふべき「改正教育基本法」第4条第2項に「国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない。」という文言が新たに加わったことは、これからの特別支援教育充実のために非常に重要な意義があります。

本県でも、昨年末に「鹿児島県特別支援教育あり方検討委員会」によるまとめ（案）が出され、盲・聾・養護学校の特別支援学校としての今後の在り方、指導法の改善充実のこと等を含め、特別支援教育の充実のための様々な提言がなされております。

このような動きの中で、本校では平成14年度に「一人一人の子どもの現在及び将来の豊かな生活につながる授業づくり」をテーマに、個別の指導計画の作成と活用を通して授業づくりの在り方を提案いたしました。この取組では、保護者等との緊密な連携により、一人一人の教育的ニーズにこたえようと務めました。しかしながら、その後、関係諸機関との縦・横の連携がとれた「支援体制づくり」が必要であるとの考えから、平成15年度と16年度は、「子どもの生活をつなぐ支援体制づくりをめざして」をテーマに、特別支援教育を支える枠組みの一つ「個別の教育支援計画」をしっかりと機能させる支援体制の構築に努め、その成果を前回の公開研究会で提案いたしました。

平成17年度からは、前回の研究で得られた「支援体制を指導や支援に生かすこと」、「個別の指導計画・実施・評価の取組で収集した一人一人の子どもの情報を生活全体に効果的に生かすこと」という授業実践と情報活用という課題の解決のために、「自分のよさやもてる力を発揮する子どもを目指した授業づくり」をテーマに取り組んでまいりました。

今回、この2か年の取組の成果を、公開研究会の場で提案させていただきます。教職員、保護者、そして関係諸機関が連携・協働し合っただけでここまで来ることができましたことを心から喜ぶ次第でございます。

私たちの取組が今後充実しますように、今回の提案・発表に忌憚のない御意見、御指摘をいただきましたら大変ありがたく存じます。

最後になりましたが、今回の公開研究会開催に際し、御後援をいただきました鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、これまでの研究推進に当たり、御多用な中懇切丁寧な御指導をいただきました県教育庁義務教育課、県総合教育センター及び鹿児島大学教育学部の諸先生方に心から御礼を申し上げます。

## 総 目 次

はじめに	—————	校 長 畠 澤 郎
研究基調	—————	1
学部研究	—————	25
小学部の研究	.....	25
中学部の研究	.....	59
高等部の研究	.....	91
研究のまとめ	—————	121
おわりに	—————	副校長 宮内 英光